

I 学校教育目標(広陽の子ども)

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1 ねばり強い子ども | <自主性に富み、自分に負けない根気強い子どもを育成する> |
| 2 考える子ども | <学力が身につく、創造性豊かな子どもを育成する> |
| 3 たすけあう子ども | <責任や連帯感を重んじて、協調性のある子どもを育成する> |
| 4 思いやりのある子ども | <情操豊かで心優しい子どもを育成する> |
| 5 たくましい子ども | <健康で安全な生活のできる子どもを育成する> |

II 今年度の重点目標(子ども像)

【エリア】「人とつながり、きらめく子ども～自ら考え、判断し行動できる～」

【広陽小】「**やってみよう!**～自分から **みんなと**～」

～自己指導能力(自ら考え、自ら判断し、主体的に行動する力)が育つみんなが幸せな学校づくり

【ウェルビーイング】

昨年度は、10名を超える異動があり、転入職員を中心に広陽小学校の様々な問題点を浮き彫りにしてもらった。まさに新しい風を吹き込んでいただいた。その一つ一つの問題点について検討し、少しずつ変化がみられるようになってきた。ただ、我々教職員の特徴でもある「前年度踏襲型」を脱し切れていない点もまだまだみられるところである。

そこで今年度は、昨年度の3学期に準備したものを順次実現・実行し、形にしていく1年間としたい。また新たな視点も過度な負担にならないよう取り入れていきたいと考えている。

今年度も、エリア並びに広陽小学校の重点教育目標の達成に向け取組を推進していきたい。

前年度まで出来ていなかったことを「出来て当たり前」に

- ① **ルール**を守る子ども ～全学年での**指導の統一と徹底**
→学習規律や生徒指導上のルールを意識させ、ルールを守る子どもを育てる
- ②場に合った**言葉遣い**ができる子ども
～自分から**挨拶**、名前を呼ばれたら**返事**、授業中は**敬語**(丁寧語「です」、「ます」)を
→特に不適切な言葉(うざい、きもい、しね、ころす等々)や他者への威圧、不適切なハンドサイン等々を改めさせ、学校という場に合った望ましい(言語)環境を整える。心理的安全性の確保
- ③何事も**丁寧**に取り組む子ども
→1つ1つの物事に対して真剣に最後まで粘り強く取り組む子どもを育てる

Ⅲ 重点目標に迫る教師の力点

1 確かな学力の育成

①進んで自分の思いや考えを伝えられる児童の育成

教師：児童が粘り強く、主体的に取り組める授業をつくる

- ・個々のアウトプットの場を保证するための小グループを活用
- ・個々の考えを全体で共有し、深めるための1人1台端末の活用

②学び合う集団を作ろうとする児童の育成

教師：学びの可能性を広げる、探求的な仕掛けをつくる

「あたたかく聴こう」「心をこめて話そう」の定着

※特に「聴く」力の育成

- ・相手の思いを心で受け止める聴き方
- ・発言者を育てる聴き方

③学習指導要領をおさえた単元構想の工夫と教材研究

教師：子どもから問いが生まれる(R7研究) →学ぶ喜びのある授業づくり

やり取りの充実(対教師、対クラスメート) →対話と思考の充実

学習成果の表出(まとめや発表) →時間の保証により書く力の向上

④日々の校内研修の活性化

教師：授業支援ソフトの活用幅を広げるオープンシェア(得意なことの相互交流)と
校内研修

互いに切磋琢磨する校内研修～1人1公開授業の継続

④その他 ・1つ1つの学習や作業を真剣に丁寧に(例：名前記入時の丁寧さ等) **丁寧**

2 豊かな心の育成

①人の気持ちがわかる児童の育成

教師：児童が安心して自分の考えや気持ちを表現できる集団をつくる(ルール、言葉遣い)

②違いを認め合える児童の育成

教師：いろいろな人(学校・家庭・地域)と関わり合える機会を充実させる

※信頼関係を構築し、相手の話をしっかり聴き、認め合う学級づくり(心理的安全性の確保)

③当たり前を積み重ね、自分で考え行動できる児童の育成

教師：児童のよりよい判断を促す支援 / $+ \alpha$ の提案で自ら活動を創っていく支援
背景を含めた児童理解に努める

3 健やかな体・主体性

①自らの心と身体に向き合い大切にできる児童の育成

教師：児童が主体的に考え、行動できる場をつくる(児童会、特別活動、クラブ活動他)

※挨拶の意味と価値付けを意識した支援

②自ら新たなことを生み出したり、それを発信したりして他者と関わることができる児童の育成

教師：楽しみながら工夫をし、新しいものを生み出す支援と時間の保証

- ・重点目標の「やってみよう!」の通り、「前例踏襲」にこだわらない柔軟な発想を促す

IV 課題と確認事項

1 昨年度までの継続したエリア連携の取組

- ・昨年度までの取組で得たものについては継続していく
例:「デジタル職員室の活用」「端末を活用した毎朝の心の健康観察」
「エリアで統一された ICT スキル表の定着」等
- ・今年度も西陵中エリアとして、ベクトルを合わせて、連携した取組みを進める。
- ・「働き方改革」については、時間外勤務時間の縮減は進んでいるところであるが、改めて「働きやすさ」と「働きがい」のある職場づくりを目指していく。
- ・「生徒指導提要进行を生かしたいじめ・不登校児童・生徒の解消」に向け、義務教育9年間を見通した取組の基盤をつくる。

2 学習指導要領を基本とするカリキュラム・マネジメントの工夫

- ・子どもたちが新しい時代を生き抜く資質・能力を確実に身に付けさせる
- ・学年ごとに到達目標を意識し、学力・体力の向上を確実に進める
- ・習熟度別授業(算数科4~6年の加配)による伸びしろ層(低位層)の底上げ
- ・「ICTの積極的利活用」の向上を目指すためには、①児童のICT活用スキルの向上と②教師のICTを使つての授業の向上の両輪で取組を進めなければならない。

3 学校全体としてのスピード感のある危機管理

- ・保護者・地域への説明責任を自覚し、子どもの指導にかかわる教職員間におけるスピード感のある情報共有を重視した取組を継続する(生徒指導交流会の定期開催と内容の充実)
- ・公教育に携わる組織体、公務員として、法令遵守の徹底に努める。研修の定期実施

4 今年度の重点目標の達成へ向けた全教職員の意識の共有化を重視

数年前のコロナ禍で削減したものを必要に応じて復活または新しい形での取組として行われてこなかった。昨年度より少しずつ前進してはいるが、これにより様々な面で学校運営が停滞していたのは事実である。職員も大幅に入れ替わり、その方々の前任校の取組も参考にしながら、さらにアップデートしていく必要がある。

- ・子どもたちが自ら考え、判断し行動に移すことを日常化する。
→今も当然大事だが、「将来にわたって生きて働く力」の素地をつくる。
- ・新たな発想で考え行動する子どもたちに、寄り添い、後押しできる教職員でありたい。
- ・子どもたちは「試供品」ではないが、よりよい広陽小にするために子どもも教師も新たなチャレンジを推進していきたい。

V めざす教師像(使命感に燃える教師)

- ◆児童理解に努め、一人一人を大切にする教師
- ◆研修に励み、わかる授業の創造に努める教師
- ◆豊かな発想で、新たな創造に喜びをもつ教師
- ◆仕事に責任をもち、協力し合う教師

- ① 子どものために教師の力量を高め、もっている力を惜しみなく出そう
- ② 子どもたちのよさや可能性を最大化する目をもとう
- ③ 子どもの姿に着目し、子どもの声(つぶやき)に耳を傾けよう
- ④ 子どもの力を認め、さらに引き出し伸ばす教育技術を身につけよう
- ⑤ 子どもたちと共に歩む姿勢で指導にあたり、揺るぎない信頼を築こう

VI 教育活動推進の重点

1 魅力ある学校づくり

■児童・保護者・地域にとって安心感・信頼感のある学校づくりに努める

- (1)情報の共有化をめざす開かれた学校と目的を明確にした開かれた教育課程の創造
- (2)学校のニーズに応えてくれる学校支援ボランティアの積極活用と連携
- (3)地域や家庭と連携した学校力向上を目指した挑戦の継続
- (4)子どもの心理的安全性が担保された学校、学級経営

2 教育課程

■学習指導要領の趣旨を踏まえ、学習者中心の教育課程の編成・実施に努める

- (1)学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成・実施・評価・改善
- (2)児童の状況を把握し、学校・地域の実態を生かす工夫
- (3)各教科・各領域の関連や目標及び位置づけを明確にした管理と運営

3 学習指導

■個に応じたきめ細かな指導の充実を図り、確かな学力の育成に努める

- (1)個に応じたきめ細かな指導による基礎基本の確実な習得
- (2)学ぶ喜びを実感できる「児童を主語にした授業」の工夫や改善
- (3)家庭学習の習慣化
- (4)隙間時間を活用した未定着単元の復習(前学年の既習単元含む)

4 道徳教育

■思いやりの心を育て、温かい人間関係を育む道徳教育の充実に努める

- (1)道徳科のねらい及び評価についての共通理解
- (2)道徳科授業実践の交流
- (3)道徳との関連を図った豊かな心を育む教育活動の充実

5 特別活動

■集団活動を通して、個性を伸ばし、自主的・実践的な態度を育てる

- (1)学級活動の工夫と望ましい人間関係の醸成
- (2)児童会活動の充実と自主的・主体的な態度の育成
- (3)豊かな体験活動を取り入れた学校行事の充実

6 生徒指導

■児童理解に努めるとともに、児童相互、児童と教師の深い信頼関係を築く

- (1)カウンセリングマインドに基づいた生徒指導の充実
- (2)規範意識の向上とその内面化を図る指導の工夫
- (3)家庭・地域と連携した指導の工夫
- (4)1人1台端末を活用した毎朝の心の健康観察により「なやみ」や「いじめ」の早期発見と早期解決につなげる。5,6年生は心の健康観察アプリ導入(R8より)

7 健康・安全指導

■健康・安全に関心をもち、進んで実践する態度の育成に努める

- (1)健康安全指導の全体構造に基づいた指導の充実
- (2)危機管理意識の高揚と交通安全指導の徹底
- (3)望ましい食習慣の形成と食に関する指導の充実

8 キャリア教育

■児童一人一人が将来や生き方を適切に考えることができる指導に努める

- (1)6年間を見通した指導計画と継続的な指導体制の確立
- (2)自己肯定感を高める効果的な指導の充実
- (3)正しい職業観や勤労観を育む生き方指導の充実
- (4)キャリア教育=生き方教育と位置付け、夢に向かって努力できる環境づくり

9 学年・学級経営

■学校教育目標や経営方針を具体化し、経営の充実に努める

- (1)ともに高め合い、ともに助け合う生活集団など、望ましい集団づくりの工夫
- (2)児童一人一人のよさを引き出し、伸ばす指導の工夫

10 校内研修

■指導力の向上を目指し、組織的・計画的な研修を推進する

- (1) 新たな研究計画や研究内容等の策定と推進
- (2) 日々の授業実践の積み重ねによる積極的な授業公開～|人|公開
- (3) 学校教育指導の実施や各種研究会等への積極的参加
- (4) 授業支援ソフト(ミライシード)の研修を継続実施

11 特別支援教育

■児童個々の教育的ニーズに応じた支援体制の確立に努める

- (1) 情報の共有化を図った校内支援体制の充実
- (2) 支援級と交流級での指導内容や滞在時間のバランスの適正化
- (3) 児童個々のニーズに合った副教材やテスト教材の活用
- (4) 外部関係機関等との連携

12 学校評価

■自己評価と関連づけた外部評価を実施し、学校改善に努める

- (1) 学校改善に資する評価項目の設定による学校評価の推進
- (2) 参観日や学校だより・HPでの説明等、評価結果の積極的な公開
- (3) 学校運営協議会への自己評価(教職員・保護者・児童)提示と委員による学校評価

13 事務

■教育効果の維持を重視した事務処理の迅速化と適正化に努める

- (1) 事務処理の手順や経路の明確化
- (2) 教育予算執行の適正処理と金銭の取扱いの厳正化
- (3) 收受・発送文書や諸台帳の点検整備の徹底

14 教職員の健康管理・働き方改革

■教師自身が積極的に健康管理に努め、教育活動の充実を図る

- (1) 自らの体調管理と早めの対処
- (2) ストレスコントロール・ストレスチェックの徹底
- (3) セルフマネジメントによる業務の効率化

15 情報モラル教育

■特定の「1つの教科」だけで行うのではなく、複数の教科や活動の中で横断的に行う

- (1) 総合的な学習の時間・・・情報の集め方、SNSトラブルの事例学習、安全な使い方等
- (2) 特別の教科道徳・・・ネットいじめ、他人の気持ちを考えた発信、著作権やルールを守る心
- (3) 国語科・・・情報の読み取り方
- (4) 学級活動・・・端末の使い方ルール作り
- (5) 社会科・・・情報社会の仕組み、メディアの役割